

国際研修(コ05)

目 的 近年日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。そこで、国際及び各国の機関と共催、あるいは協力を得て、研修等を国内外において開催することで、保存修復関係者への技術移転、情報共有を行う。

- 成 果**
1. 国際研修「紙の保存と修復 (International Course on Conservation of Japanese Paper)」
開催を予定して準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止とした。
・参考(当初予定)
期日：2020(令和2)年8月31日～9月18日
主催：東京文化財研究所、文化財保存修復協力国際センター (ICCROM)
会場：東京文化財研究所他国内
参加者：10名
 2. オンラインセミナー「国際研修『ラテンアメリカにおける紙の保存と修復2012-2019』
(Online Seminar International Course on Paper Conservation in Latin America 2012-2019)」
期日：2020(令和2)年12月4日～11日
主催：メキシコ文化省国立人類学歴史機構 国立文化遺産保存修復機関 (CNCPC-INAH)、東京文化財研究所、ICCROM
会場：オンライン開催
参加者：2012-2019年の研修修了者
内容：複数のセッションに分けて、終了後の実践や経験の報告とそれを基にした和紙、装こう修理技術などその応用に関する討議を行った。セッションテーマ(技術の応用、クリーニング、教育普及、接着剤、補修、裏打ち、フラットニング)
 3. 記録作成
2019(令和元)年に開催した国際研修「紙の保存と修復」の記録として、報告書とその補助資料としての装こう修理技術実習の動画を作成した。

刊行物・『国際研修「紙の保存と修復」2019』東京文化財研究所 21.3

研究組織 ○加藤雅人、友田正彦、後藤里架(2019年7月まで)、五木田まきは(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存科学研究センター)、三本松俊徳、廣原大樹(以上、研究支援推進部)